

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472100375		
法人名	有限会社 恵敬グループホーム		
事業所名	恵敬グループホーム		
所在地	三重県いなべ市北勢町垣内482番地2		
自己評価作成日	平成23年1月18日28日	評価結果市町提出日	平成23年4月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2472100375&SCD=320
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 23 年 2 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>一般の家屋を使用しており、家庭的な雰囲気の中で生活していただいている。職員は入居者様を自分の家族と思い、暖かい介護を行っている。個々のペースを大切に、職員と入居者がゆったりとした雰囲気です。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>民家を上手く利用し造られた建物は、自宅を思わせる寛ぎの場所である。経験のある職員が多く、どんな場合も本人のペースを大切にし対応するため、利用者は落ち着いて暮らしている。月一回、専門員による口腔ケア指導を受けており、日頃から口腔訓練に取り組んでいることが数々のお口の体操のための掲示物からも伺える。畑では利用者と職員と一緒に薩摩芋等の季節の野菜を作り、それらを調理し食べることも楽しみにしている。又、地元職員が多い為、地域との関係も良好である。小学生の生活発表会の見学、保育園児の訪問、ボランティアによる大正琴の演奏、近所の方が折り紙を教えてくれる等様々な活動を行っている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者が日常的に理念について話をしており、職員はそれを理解している。理念は職員の目に付くところに掲げられており、常に意識付けを行い、その実践に取り組んでいる。	「常に入居者様を中心とした暖かい介護に努めます」という理念の下、管理者が口癖のように利用者が自分の親ならどうしてあげたいか考え、接するように職員に話しており、その思いは全職員に浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方には、日頃から挨拶をきちんと行い、野菜を届けていただいたり避難訓練に参加していただいたりしている。小学校や保育園の児童が訪問してくれたり、運動会に招待されたりしている。	日頃からの近所づきあいがしっかりとできているため、今年事業所で開催した認知症サポーター養成講座に地域の方が17名も参加したり、避難訓練には6名の参加がある等、事業所の存在が地域に根付いてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が認知症サポーター養成講座を受け、地域の認知症の支援に生かしている。運営推進会議に参加いただいている地域の方に、認知症介護で困っている事などがあれば、気軽に相談に来ていただくように働きかけを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではホームの近況報告を行い、参加者から意見をいただき、サービスの向上に努めている。	包括職員・市長寿介護課・自治会長・老人会長・民生委員の参加にて、年6回実施している。事業所の活動状況を報告する等にとどまらず、昔からの地域住民しか知らない情報を頂く等、双方向的な会議となっている。	少なくとも1回くらいは、家族の参加が出来るよう、会議の日程調整を関係者と話し合うことに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターや市役所の長寿介護課に運営推進会議に参加していただいております、連携を図っている。	市包括支援センターより認知症サポーター養成講座の依頼がある等、市との協働関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を行い、自分達の介護を振り返るようにしている。玄関の施錠は、入居者様の状態に応じて、会議を行い、施錠をしないように努力している。	「言葉の拘束」についても事例を挙げて議論し、勉強会を実施している。外へ出て行く利用者には、後ろをそっと歩き見守る等、職員全員で利用者の安全を確保し、自由な暮らしができるよう工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を行い、自分達の介護を振り返るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について研修を受けている。必要があれば、活用に必要な支援を行う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族に納得いただいて、契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、管理者がご家族と連絡を取り合っており、意見や要望を聞いている。意見箱を設置している。	冬季足浴の要望等出された時は実施し、毎月家族に個々の利用者の様子・健康状態等を「通信」として送付したり、家族会をいも掘りと兼ねて行うことで、家族が意見を言い易くする雰囲気づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員の意見や提案を聞き、職場の会議で話し合い、業務改善などを行っている。	管理者は、利用者が喜ばれることをしたいという現場の意見を第一に優先しており、たくさんアイデアが迅速に活かされている。毎朝の申し送りや月1回の会議でも、業務改善のための話をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい現場の雰囲気作りを行い、無理のない勤務体制をとることができるように人員の調整などに配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に必要な費用などを出し、研修への参加を促すなどスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス協議会に入っており、研修会に参加したり、他施設の見学を行ったりしている。地域の施設ケアマネージャーの交流会に参加し、サービスの質の向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できる限り入所前に本人を訪問して話を聞き、思いを受け止め、不安を軽減するようにしている。施設の雰囲気を知ってもらうために数時間体験してもらう事もある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に、事業所に来所していただいたり、自宅を訪問して、ご家族の思いを受け止めるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅時の担当ケアマネージャーや入院中の病院の相談員と相談しながら、家族と一緒に検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者様は常に同じ空間の中で過ごし、一緒に掃除をしたり畑仕事をしたり、テレビを見て笑ったりする関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との個々の事情や関係の理解に努め、より良い関係が保てるように、家族との連絡調整に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に協力してもらい、入所前に住んでいた所に連れて行ってもらったり、外出の時に馴染みの場所を通るように道を選ぶなどしている。	本人をより理解するために、利用前家族に記入して頂いた「私の暮らしの情報シート」を元に、親戚や友人等の昔話に花を咲かせたり、受診の帰り道に故郷をドライブして懐かしんだりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の相性の良さ悪しなどを把握し、座席を工夫するなど、トラブルの防止に努めながら、より良い関係ができるように見守りや援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な人には、電話をして近況を尋ねたり、入院先を訪問したりして相談に乗るようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族の話を良く聞き、本人やご家族の意向の把握に努めている。本人のこれまでの暮らし方を聞き取り、そこから意向を汲み取るようにしている。	一人ひとりの家族に詳細に記入して頂いた、「私の基本情報・療養・支援マップ・暮らし・家族シート」等を利用し、その人が好む話題をしたり、生活リズムに配慮する等その人らしく暮らせるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人からのみではなく、在宅時の担当ケアマネージャーと連携し、これまでの暮らし方を把握するようにしている。利用していたデイサービスなどの相談員と連携を図ることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族や本人からのみではなく、在宅時の担当ケアマネージャーと連携し、これまでの暮らし方を把握するようにしている。利用していたデイサービスなどの相談員と連携を図ることもある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現在の課題を職場の会議などで話し合い、ご家族の意向を確認しながら計画を作成している。	職員の意見や一日の観察記録を元に、ケアマネージャーが作成した計画を、再度職員が確認している。モニタリングは3ヵ月毎、変化があれば随時行い、利用者・家族の見解・計画実践状況・目標達成状況を記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別記録に記入し、周知の必要な事は送りノートに記入して、情報の共有を図っている。月1回職員会議を開き計画の見直しや介護の工夫を共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期通院の送迎や付き添いを行っている。本人の状況に応じて、個別に外出の援助を行うこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方に、演奏会をしてもらったり、地域の理容院に出張してもらったりしている。 小学校や保育園と交流し子供たちから花をもらったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診や電話による相談などができる関係をかかりつけ医と築いている。受診が必要な時は、付添をして医師に必要な情報を提供するようにしている。	家族と本人の希望により、全員のかかりつけ医が往診のある協力医療機関である。精神科や眼科等の他科受診は、基本的には職員の送迎・付き添いで行っている。結果は、家族に電話連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の職員と相談しながら健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、日頃の様子や状態を文書で情報提供している。入院中は時々面会に行き、状態の把握をしている。退院時は病院から情報を頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の看護体制や勤務体制とご家族の意向を踏まえて、かかりつけ医やご家族と十分に相談しながら入居の継続の可否を決めている。	利用前より、家族に事業所としての指針(主治医が困難と認めた場合)を説明し話している。経口摂取が不可能になれば対応は困難であるが、ミキサー食の対応の実践や、エアマットを事業所が用意して対応する等支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を受けて応急手当ができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した避難訓練を行い、近隣の方にも訓練に参加していただいている。消防署にも訓練に協力してもらい指導してもらっている。	町内会と近隣防災協定を締結している。今年5月には、消防署・近隣の方6名・市長寿介護課・包括職員の参加にて、夜間台所から出火したことを想定し実施した。10月には地震の訓練を行い、年2回実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様を自分の家族と思って関わることを管理者から常に言われており、一人ひとりを大切に介護している。プライドを傷つけることの無いように、言葉遣いに注意している。	夜中に歯磨きをする方、歩く方でも無理に止めさせたりせず、その人らしさを認め見守っている。言葉づかいにも配慮しており、プライバシーに関する研修も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家族的な話しやすい雰囲気を作るようにしている。個々にゆっくりと関わる時間をとり、思いを表出できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション等の参加を無理強いせず本人の意思を尊重している。日常生活のリズムを保ちながら、昼寝をしたり、自室で過したり、個々のペースで生活できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をしている方もいる。美容師に出張してもらっている方もいれば、美容院に行かれる方もいるなど、それぞれの好みに応じて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自家菜園で一緒に収穫した野菜を使ったりしている。自分でおはぎを丸めてあんこをつける、食器を片付けるなど、できることを一緒にやっている。	自家菜園、近隣から頂いた野菜等を利用し、職員が調理する。心和む陶食器に盛りつけられた食事を皆でテーブルを囲み会話をしながら食べている。家庭的な味に満足な表情を浮かべたり、下膳を自分で行う姿が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の好みに合わせて、温かいお茶や冷たいお茶を出したり、牛乳を配達してもらう支援をしている。本人の状態に応じて、お粥など、食事の形態を変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回歯科衛生士による個別指導を受けながら、一人ひとりに応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄前の行動パターンや排泄のペースをつかむようにしながら、失禁の多くなった方には、トイレ誘導の回数を増やすなどして、できる限りオムツを使用しないようにしている。	日中は、布パンツを使用していただき、一人ひとりにあったトイレ誘導・介助をしている。夜間はリハビリパンツを使用する方もいる。失敗した時は、気付いていないふり等をして、さりげなく対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の食べ物や水分摂取を心がけている。排便を促すため腹部をマッサージする事もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間は職員の勤務体制の都合上、安全面に問題があり入浴はできないが、入浴の時間や長さ、温度などは、できる限り本人の好みに沿うようにしている。	午前中に1日おき、一人ずつ入っている。家庭的な個浴で、温度調節や入浴剤の利用、介助・見守り等好みや必要に応じて支援をしている。拒む方には無理強いせず、タイミングを図り気持ちよく入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンに応じて、昼寝をしたり就寝時間を遅らせたりしている。添い寝をして、安心してもらえるようにする事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明用紙を読んでいる。説明用紙は薬の側においてある。服薬確認は3名で行い、間違いのないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除が得意な方は掃除を、洗濯物をたたむのが得意な方は洗濯物たたみをしてもらうなど役割を持てるように支援している。受診の帰りに喫茶店に寄るなど、楽しみが持てるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力を得て、入居前に住んでいた所に連れて行ってもらったり、希望があれば職員と一緒に買い物に出かけたりしている。外食にでかけたり、ご家族と一緒に遠出する事もある。	近所や畑への散歩、受診の帰りに喫茶店へ寄ったり、利用者と共に食材の買い物をする等の日常的な外出の他、なばなの里へ家族もいっしょに出かけたり、皆で作ったおはぎを持って公園へでかけたり、梅・コスモス・紅葉等季節を楽しむドライブ等を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行った時、自分でお金を払える人は自分で払ってもらっている。お小遣いを自分で管理している人もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で電話をかけることができる方は、自分で電話をかけてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般の家屋を利用しているため、生活感にあふれている。季節の節句に合った飾り付けをして、季節感を取り入れるようにしている。ゆったりと過せるソファを日当たりの良いところにおいている。常に空調で室温調節を行っている。	懐かしい雰囲気の家はコの字型に造られ、どの部屋にも最適な採光が入り、出入り口が多い。長い廊下に置かれたソファは、庭に咲く花を眺めることができ、寛ぎの空間である。神棚、雛人形、職員の描いた油絵、皇室の方々の写真、利用者の自己紹介、行事報告等が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングだけでなく、渡り廊下やホールにもソファや椅子を設置しており、思い思いの場所で気のあった方と過せるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の好きなポスターを貼ったり、写真を貼ったりして、落ち着ける場所になるようにしている。 入居時に使い慣れたものを持ってきてよい事を家族に伝えている。	各居室にエアコンの設置、窓があり温度・空調の調節が可能である。テレビ、ラジカセ、棚等好みの物を置いたり、好きな歌手のポスターを張ったりとそれぞれが落ち付いて過ごせるように工夫してある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋の良く見えるところに、名前を貼ったり、トイレを大きな字で表示したりする事でわかりやすくしている。低床のベッドや手すりを設置し、安全に過せるようにしている。		